



第2660地区
Rotary
 吹田西ロータリークラブ

2014-2015 週報

■創立 1980.6.12

事務所 ☎564-0051 吹田市豊津町9番40号 東急プラザ江坂1階
 ☎(06) 6338-0832 FAX (06) 6338-0020
 URL <http://www.suita-west-rc.org>
 例会場 新大阪江坂東急イン
 ☎564-0051 吹田市豊津町9番6号 ☎(06) 6338-0109
 例会日 毎月曜日 18:00~19:00
 役員 会長：田中慶一 幹事：本田智教 会報委員長：郷上 勲

4つのテスト ●真実かどうか ●みんなに公平か ●好意と友情を深めるか ●みんなのためになるかどうか

第1567回例会 平成27年3月16日

卓話 「クリーンウォータープロジェクト
 タイナコンパノムRC訪問報告」
 橋本(芳)委員長
 今週の歌「限りなき道ロータリー」

先週内容

会長挨拶 田中(慶)会長



3月4日朝9時、消防署の依頼で来ましたと、作業服姿の男2人が突然訪問し、部長は居られますかと消防点検立ち入り許可証という用紙を見せ、点検のみですので直に終わりますとサインを受け点検を開始。約1時間くらい点検を行い、作業終了報告と同時に消火器の消火剤の入れ替えや点検費用として約10万円の料金を請求。点検のみで料金発生の際は説明を受けていない事を伝えると請求書にサインをしている事を強調。この請求書は点検を終了した事での確認として安易にサインをさせた後、金額を記入したと思われま

す。消防署に確認をすると伝えると「今日は一度帰る」と言い残したが、後日、本社に支払いの要求や何度も電話があり、業務にも支障が起きていました。会社名はダイワ技研という都島区の会社で、インターネットで検索すると全国的に全く同じ手口で詐欺をしているとの書き込みがありました。

直に消費者センターに相談しましたが、この時の返答に疑問があります。消費者センターは個人の通報には介入できますが、法人同士には介入できないとの返答。

それではと警察に通報するも、こちらも同じ回答。しかも、何らかの点検作業を行っているのであれば、弁護士と相談し妥当な金額を支払うべきとの指示。皆様もお気をつけください。

それではと警察に通報するも、こちらも同じ回答。しかも、何らかの点検作業を行っているのであれば、弁護士と相談し妥当な金額を支払うべきとの指示。皆様もお気をつけください。

識字率向上月間

次週 第1568回 例会予告 平成27年3月30日

卓話 「バイオリン演奏」 KAGOミュージック
 籠谷 紗希様
 モリオカ モリオ様
 清水委員長ゲスト

Weekly No. 1567は家村副委員長が担当しました。
 Weekly No. 1568は水間委員が担当の予定です。
 (本日の原稿をお渡し下さい)



簡 仁一ガバナー補佐 ご挨拶



- 今週の土曜日3月14日は、IM開催日です。後程、小林IM実行委員長よりご連絡があると思いますが、皆さん是非、ご出席をお願い致します。
- 2013-14年度ガバナー補佐で吹田RC会員、井上義信様をご逝去されましたのでお知らせ致します。ご葬儀の詳細は回覧致しますので、ご覧ください。

ゲスト

佐藤委員

第2組ガバナー補佐 簡 仁一様

出席報告

阪本委員長

- 会員数 47名 ● 来客 1名
- 出席会員数 37名 ● 本日の出席率 88.10%
- 2月9日の出席率(メーキャップを含む) 100%

親睦活動委員会

澁谷委員長

献血活動のご案内

今年度2回目の献血です。3月18日(水)午前10時~16時、会場は株式会社ビケンテクノさんの会社駐車場です。血液はまだ不足しているという事ですので、皆さんの会社の従業員さんに協力して頂くよう宜しくお願いします。

ビケンテクノさんの社員さんには毎回お世話になっております。また、尾家産業さんの社員さんにもお世話になっております。今回もよろしくお祈りいたします。

IM実行委員会

橋本(徹)副委員長



- ◆ 新井会員
簡ガバナー補佐様ご苦労さまです。
- ◆ 鈴木会員
本日、拙い卓話ですが、よろしくお祈りいたします。
- ◆ 橋本(芳)会員
誕生日ありがとうございます。
- ◆ 阪本会員
家内の誕生日の品、有難うございます。
- ◆ 井伊会員
誕生日のお祝い、ありがとうございます。

本日のニコニコ箱	17,000円
累計のニコニコ箱	837,000円

卓話

「日本昔噺 第八話」

鈴木パスト会長



「卑弥呼は渡来人か倭人の巫女か」「卑弥呼このの都はヤマトか北九州か」「卑弥呼の墓はヤマトか北九州にあるのか」など、昔から論争されている問題に本日は決着をつけます。

まず卑弥呼の出自から話をさせていただきます。

卑弥呼の出自

天理市から金象嵌太刀の出土

奈良県天理市にある東大寺山古墳から昭和36年に日本は勿論、中国でも珍しい24文字の金象嵌の入った太刀が出土しました。

この太刀には「中平〇年 五月丙午 造作分刀 百鍊清剛 上應星宿 下辟不祥」と象嵌されていました。

この中平と言う年代は後漢の末期の西暦184

-189年の間に中国で使われた年代で、この時代の大きな出来事と言うと黄巾こうきんの乱が有名です。

この文章の要約は「中平〇年の吉日にこの太刀は良く製錬されて作られました。この太刀は天上では神の御意に従い下界では災いを避ける」と言う意味です。即ちこの太刀は黄巾の乱の大將クラスの人が持っていた太刀で非常に貴重なもので、これほど重要な太刀は中国本土でもほとんど発見されていません。

このような貴重な太刀が日本にどのようなルートでなぜ入って来たのか、またどうして東大寺山古墳に埋葬されていたのか、この黄巾の乱の大將が所有していた金象嵌の太刀が卑弥呼の出自を解決するキーポイントです。

黄巾こうきんの乱の復習

黄巾の乱は後漢の末期、宦官による悪政のため、庶民が困り果てていた時に五行思想と医術を基に、皆が平等で有るべきとの思想の下に太平道という宗教団体の張角というリーダーが民衆と共に立ち上がって後漢政府に反乱を起こしました。しかし後漢の大將の曹操や孫堅の率いる正規軍には勝てず、一年足らずでリーダーの張角が戦死し、残った反乱軍はそれぞれの地方で10年近く抵抗するが遂に滅ぼされました。

この時、この残党は朝鮮半島や高句麗の方に逃げ延びるがその一隊が倭国にも逃避し、遂に大和にまでも逃げ延びてきて纏向まきむく地方に新しい新開地を開き、ここで彼らの理想郷を作ったと思われます。

その時の首長が大事に持っていた神刀は彼らの守り刀となり何世代も受け継がれ、数百年後にはそれが大切に纏向遺跡の近くの東大寺山古墳に埋蔵されました。

纏向まきむくまでの道のり

この残党が本当に倭国に逃避し、纏向遺跡まで来たのかを示す物的証拠が必要なのでそのための検証を行います。

まず、纏向遺跡の事は皆さんも新聞などで

ご存知のように、従来の弥生集落とは異なり、宗教儀式の神殿が中央に建てられ、その周りに大型建物が建てられています。即ち新たな宗教団体が現れ彼らが新しい形式の集落を作った証拠です。

この纏向形式の建物は農耕中心の弥生時代には無く、弥生後期の西暦200年頃から急に現れたもので、特に神殿は棟持ち柱形式で伊勢神宮の本殿と同じ造りになっていることから敬虔な宗教団体にないとは作らない集落なのです。

この形式の集落が纏向遺跡に現れる前に纏向地方から見て日本海の方、琵琶湖湖畔にこれと同じ集落を作った宗教集団が居り、その地域を経由して遂に大和までその一団が南下して来て纏向に彼らの理想郷の集落を作ったのです。

その琵琶湖湖畔の遺跡は平成4年から13年にかけての遺跡調査で滋賀県栗東市伊勢町から大型神殿が数棟発見され、この遺跡は伊勢遺跡と命名されました。この遺跡は出土品から西暦190年頃に建てられた宗教儀式用の集落で、従来の農耕中心の弥生式集落とは大いに異なるものでした。

この伊勢遺跡だけでなく、栗東町から野洲町にかけて西暦200年前後に次々と神殿作りの集落が形成されており、平成16年に伊勢遺跡から南に1.2kmの所に下鈎しもまがゆ遺跡が発見されました。

これは即ち、朝鮮半島から倭国を目指し逃げ延びてきた大勢の宗教集団が、敦賀湾に上陸したのちも安全を求め南下を続け、この琵琶湖東岸までたどり着き、ひとまずこの地に定住すべく神殿づくりの彼らの集落を作ったものと思われます。

彼らは文化度も高く、今までの弥生時代にはなかった長さが1m50cmの大型の木の琴が下鈎遺跡から発見されています。

しかし彼らはこの琵琶湖湖畔よりも安全で豊饒な土地を求め南下を計り、山城を抜け、遂



LIGHT UP ROTARY

ロータリーに輝きを



に四方を山で囲まれたより安全なヤマトの纏向まで至り、ここに安住の地を求め、宗教集団として立派な神殿作りの集落を作りました。そして黄巾の乱から大事に守ってきた金象嵌入の神刀を永代保持し続けたが、その役目も終わったのか、数百年が経過したのでその太刀の意義が失われたのか、その神刀を東大寺山古墳に収めました。この古墳に祭られた一族の人達こそが黄巾の乱から逃れて来た人達の末裔と思われます。この東大寺山古墳が和爾神社の敷地内にある事から、この一族はこの地方で豪族として栄え、天皇に妃を出していた和爾氏で、琵琶湖沿岸にも一族が定住しており、その名は大津市の和爾村やJR湖西線の和爾駅など未だに残っています。

卑弥呼一族は北九州

卑弥呼一族もこの黄巾の乱による逃避者であり、その証拠は卑弥呼の墓と信じるに値する平原古墳から後漢時代に主に妖術に使用した方格規矩鏡ほうかくきよくきょうが32面と大量に出土したことから、これらを大陸からの逃避の時に持ち込んだもので有る事を裏付けています。

この方格規矩鏡といわれる鏡は、後漢時代に五行思想を取り入れた鏡で、英語のT、L、Vなどの形は今までになかった定規やコンパスなどを示すかのような模様で、そして四神や十二支も取り入れた巫術専用とも言える鏡です。この方格規矩鏡が32面も出土したことは、この持ち主も古道教の思想を持っており、黄巾の乱の残党と同じ宗教団体で有る事を示しています。

即ち卑弥呼も西暦190年頃に黄巾の乱から逃避して北九州にやって来た巫術を使う一族で、新しい五行思想と天文学や医学を駆使し、北九州の国々の王たちを心服させ、やがて女王に君臨するようになった。

朝鮮の巫女

黄巾の乱から逃れた宗教団体の巫女の多くは朝鮮半島に定着し、そして現代でもその巫女たちはムーダンと呼ばれ庶民の生活の中で活動しています。このムーダンは祭礼や諸行事の主導者として一切を一人で仕切り、一人のムーダンが数十の村を受け持っているそうです。これらの習慣は卑弥呼の時代が未だに朝鮮半島には残っているようで有ります。

纏向と同族

卑弥呼のいた都に纏向と同族の人達が大量に住んでいたことが証明されている。これは福岡市の西新町遺跡から纏向遺跡で見つかる土器と同じ形の土器が沢山見つかることから、纏向遺跡に逃れた人達と同族の人達がこの卑弥呼の都にも大量流れ込んでこの地で土器を造り生活していたことの証になっている。この事は卑弥呼と纏向遺跡に逃れた宗教集団の一族と出身地を同じくしていた証拠です。そしてその土器の比率は纏向型土器が約25%を占めていることから、卑弥呼の都には4人に1人の割合で黄巾の乱からの逃避者がいた事を示しています。

結論

卑弥呼は日本古来の巫女の様に死者の霊を祭り、豊作を祈るだけの弥生時代の巫女出身者とは異なり、後漢時代の新しい五行思想と天文学や医学の知識を駆使し、当時中国で新たに使われだした方格規矩鏡を用いて巫術を行うことで国々の王たちを心服させました。この卑弥呼は黄巾の乱の宗教団体の一派として北九州に渡来し、方格規矩鏡を用いるだけでなく、直径2尺の大型内行花文鏡を作らせました。この直径46cmにも及ぶ大型鏡を鑄造する技術はその当時の倭国には無く、東大寺山古墳から出土した金象嵌入太刀を作った鑄造技術集団と共に渡来したのではないかと考えています。